

水道特集 6・7面

計画的な施設整備で

さらなる経営基盤強化へ

平成20年度の水道事業会計予算が3月定例市議会で可決されました。予算総額は144億9500万円、前年度の当初予算に比べて4億3200万円増になっています。今年度の予算の概要と主な事業・施策についてお知らせします。

問合せは水道局財務グループ（0798・32・2211）へ。

平成20年度水道事業会計予算の概要

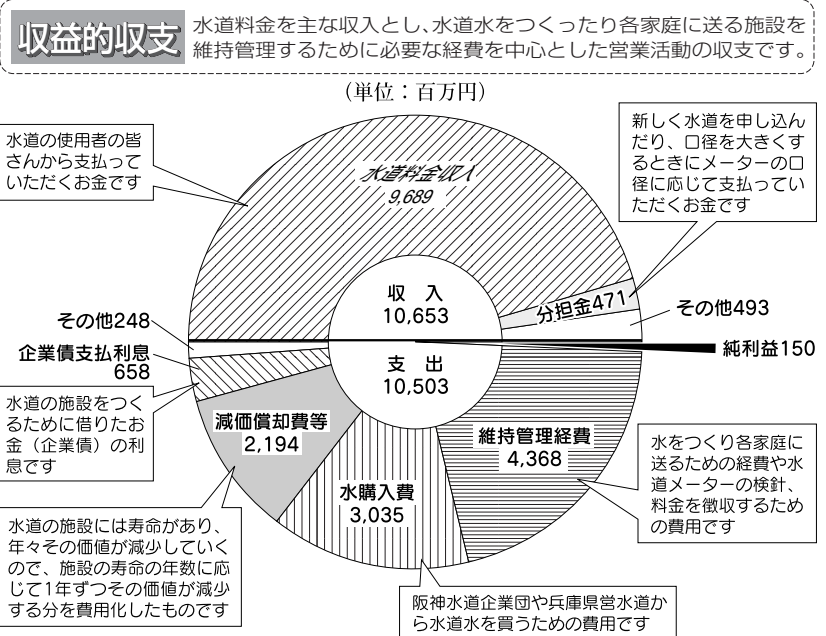
厳しい経営環境

西宮市の人口は47万人を超え、震災前を大きく上回りましたが、今後も増加傾向が続くものと思われまます。このため、平成20年も引き続き給水人口と給水戸数は増えるものと見込んでいますが、一般家庭では節水型のトイレ・電化製品などの普及や節水意識の定着などにより、一戸あたりの水道使用量は減少傾向になると思われます。また、事業所や公共施設における経費の節減を目的とした節水などが進み、使用水量は横ばいの状態が続くと予想しています。

このように、水道事業を取り巻く環境は、水道水の使用形態が変化していることから、水道事業の収入の多くを占める水道料金収入の大幅な伸びは期待できない状況にあります。

水道局は、18年度に本市水道事業の将来像とその実現に向けた取り組みを示す「西宮市水道ビジョン」を策定するにともない、水需給計画や浄水場などの施設統廃合計画の見直しを行いました。これに基づき、20年4月1

《平成20年度予算の内訳》 支出総額144億9500万円



日に変更した水道事業認可を受けました。この水道事業認可は30年度を目標とする計画で、南部地域に6つある浄水場を鳴尾浄水場1つに統廃合し、事業の効率化や施設の耐震化を進めていく予定です（7面記事参照）。しかし、これらの施設整備には、多くの資金投資が必要になります。このため、引き続き事務事業の見直しによる経費の節減を図るなど、効率的な事業運営を進めて経営改善に努めるとともに、一層の経営基盤強化を図ってまいります。

収益的収支の内訳

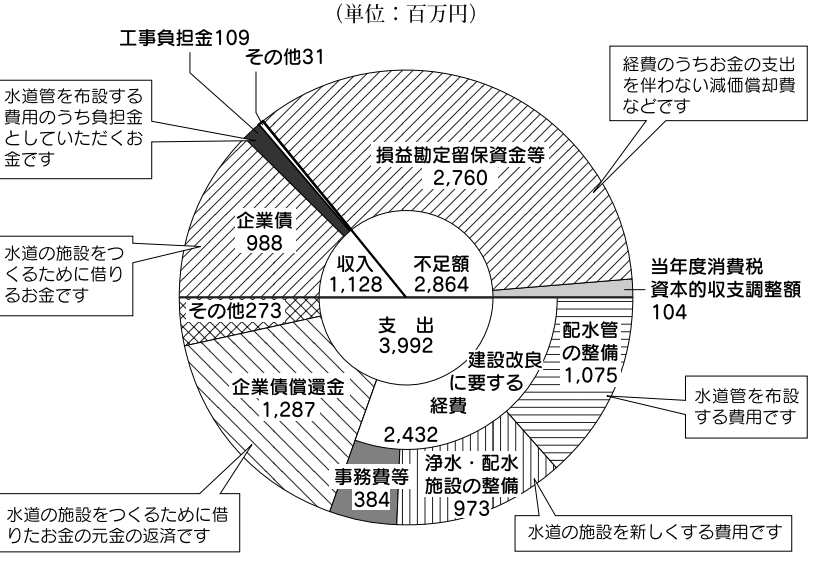
平成20年度予算は、見直しを行った水需給計画と浄水場などの施設統廃合計画を前提に編成しました。予算の内訳は右のグラフのとおりです。

水道水を供給するための営業活動を表す予算（収益的収支）では、収入を前年度より6000万円多い106億5300万円に予定しています。内訳は、水道料金収入が96億8900万円、

一方、支出は105億3000万円、前年度より1億6000万円の支出減になっています。内訳は、水をつくり各家庭に送るための経費や水道メーターの検針および料金を収納するための経費である維持管理経費が43億6800万円、

資本的収支

老朽化した水道施設を整備したり、新たに水道施設をつくるなど投資的業務のために必要な経費を中心とした収支です。収支の不足額は、損益勘定留保資金などで補てんします。



を、配水設備拡充事業では、名塩台中継場ほかテレメーター等更新工事など施設の整備・改良工事を行います。また、配水管整備事業では、「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標の試算結果を踏まえ、引き続き配水管の耐震化を進めるとともに、鉛製給水管の解消もあわせて行うことを重点にした工事計画としています。

そのほかの支出では、企業債（借入金）の元金の償還金が12億8700万円、

平成20年度の水道モニターを募集

申込受付は5月16日まで

水道局は、水道事業についての理解を深めてもらうことにも、市民の皆さんの意見を事業に反映させるため、水道モニターを募集します。

水道局のホームページ http://suidou.nishi.or.jp/ ご利用ください

あらゆる水まわりのご相談に応じます。上下水道新設・改良工事の施工、水漏れ修理、蛇口の取替、トイレのつまり、修理等。西宮管工事業協同組合